植物園だより

2019 年 4, 5 月

シリーズ 21　夕張岳で見られる植物

1. シソバキスミレ

春、北大植物園の見所のひとつに高山植物園があります。ここでは様々な高山植物が咲きます。また、非公開のバックヤードでは道内各地から集められた高山植物を栽培・系統保存しています。2019 年度の植物園だより（シリーズ 21）では、本園で栽培している夕張岳で見られる植物について紹介します。夕張岳の高山植物群落には北海道の高山植物のほぼ全ての種がみられることから、蛇紋岩メランジュ帯という珍しい地質構造とともに、国の天然記念物に指定されています。

スミレ科のシソバキスミレ（*Viola yubariana*）は、高山帯の蛇紋岩崩壊地に自生する丈の低い多年生草本です。本種は、葉の表面が濃緑色を帯び、裏面が赤紫色をしてシソの葉に似ていること、花が黄色いことからシソバキスミレと名付けられました。漢字では紫蘇葉黄菫と書きます。

根茎には多くの節があり、高さ 4～5cm の茎を立て、3～4 枚の葉を付けます。根生葉は茎より低く、葉柄には短毛が密生しています。葉は少し肉厚で卵円形～広卵円形で波状の鋸歯があり先端は急に短く尖っています。下部の茎葉は短柄をもちますが上部の茎葉は無柄です。自生地では 6～8 月頃に咲き、花は茎の葉腋に 1 個ずつ生じ、茎の下部の花は長い柄を、上部の花は短い柄をもっています。黄色い花は、花弁表面に暗赤色の脈があり、きわめて短い距をもちます。

環境省が作成・公表しているレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では、シソバキスミレは絶滅危惧 II 類（VU）（絶滅の危険が増大している種）に選定されています。

シソバキスミレ（*Viola yubariana*）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/

参考：『北海道の高山植物』（原秀雄 1976））ほか

植物園だより

2019 年 6 月

シリーズ 21　夕張岳で見られる植物

2. ユウバリソウ

オオバコ科のユウバリソウ（*Lagotis takedana* Miyabe et Tatew.）は、夕張岳の固有種で、高山帯の礫地に自生する多年草です。漢字では夕張草と書きます。

葉は長さ 3～8cm、幅 2～5cm、卵形または楕円形で先はやや尖っていて基部は円く、縁に鈍鋸歯があります。また、肉質で艶があり、長さ 2～6cm の葉柄があります。高さ 10～20cm の花茎に葉を互生して付け、先端の長さ 4～5cm、径 2cm ほどの花穂に白色でやや桃色を帯びた花を多数付けます。自生地では 6～7 月頃に咲きます。

よく似た種にウルップソウ（*L. glauca* Gaertn.）やホソバウルップソウ（*L. yesoensis* (Miyabe et Tatew.) Tatew.）がありますが、これら 2 種の花は青紫色をしています。また、ウルップソウは北海道の礼文島、本州中部、千島、カムチャツカ、アラスカなどに広く分布、ホソバウルップソウは大雪山にのみ自生しています。

環境省が作成・公表しているレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では、ユウバリソウは絶滅危惧 IB 類（EN）（近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）に選定されています。

なお通常、「植物園だより」では命名者名は記していませんが、今回は本園の初代園長である宮部金吾が命名した植物であるため、命名者名も記しました。

ユウバリソウ（*Lagotis takedana* ）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/

参考：『北海道の高山植物』（原秀雄 1976）ほか

植物園だより

2019 年 7 月

シリーズ 21　夕張岳で見られる植物

3. エゾノクモマグサ・ユウバリクモマグサ

ユキノシタ科のエゾノクマグサ（*Saxifraga nishidae* Miyabe & Kudô）は、夕張岳の固有種で、高山帯の岩場に生える多年草です。細い根葉が枝分かれして広がり、そこから立ち上がる地上茎は短く 2cm 以下で葉を密生します。葉は倒披針形で長さ 3～8mm、幅 2～3mm、先端が明瞭に 3 裂し、基部はくさび形、縁に短腺毛を散生します。花期は 7～8 月頃です。花茎は高さ 2～6cm で短い腺毛をもち、上部には数個の披針形から線形の葉があり、頂に 1～3 個の白色の花を付けます。本種によく似たシコタンソウ（*S. rebunshirensis* Sipliv.）は、葉の先端が 3 裂しないことで見分けられます。

両種の近縁種にユウバリクモマグサ（*S. yuparensis* Nosaka）があります。本種も夕張岳の固有種で、高山帯の岩礫地に自生する多年草です。本種は、葉の先端が浅く 3 裂しエゾノクモマグサとシコタンソウの中間形であること、また、個体数が極めて少なく近くにこれら 2 種が生えていることから、両種の雑種と考えられていました。しかし、最近の研究で雑種ではないことが明らかになりました。

エゾノクモマグサ
（*S. nishidae*）

エゾノクモマグサとユウバリクモマグサは生育環境が異なり、前者は岩場に小さな群落を多数形成しているため生育環境は安定していますが、後者は岩礫地に少数がまとまって生育しているため冬の凍結や雪解け時などの岩礫地崩壊の影響を受けやすく、個体数が激減しています。

環境省のレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では、エゾノクモマグサとユウバリクモマグサは絶滅危惧 IA 類（CR）（ごく近い将来における野生の絶滅の危険性が極めて高いもの）に選定されています。

なお通常、「植物園だより」では命名者名は記していませんが、今回は本園の初代園長である宮部金吾が命名した植物であるため、命名者名も記しました。

ユウバリクモマグサ
（*S. yuparensis*）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/

参考：Tamura, Nakamura et al., 2018. Phytotaxa 373 ほか

植物園だより

2019 年 8 月

シリーズ 21　夕張岳で見られる植物

4. ユキバヒゴタイ

キク科のユキバヒゴタイ（*Saussurea chionophylla*）は、夕張岳と日高山脈北部の超塩基性岩地の固有種で、高山帯の砂礫地や岩混じりの草地に生える多年草です。漢字では雪葉平江帯と書きます。葉の裏に白毛が密に生えることから雪葉と付けられました。ヒゴタイの語源は諸説ありますが不明です。

草丈は 4～10cm、根出葉は長さ 4～8cm の卵心形で、地面を覆うように広がります。葉の表は濃緑色で艶があり、脈は凹んでおり、葉の裏は白毛が密生しています。縁には細かい鋸歯をもち、長さ 2～3cm の葉柄があります。頭花は径 1.5cm ほどで、短い柄があるかほとんど無柄で、茎頂に散房状に 3～11 個が密に付きます。花冠は淡紫色で長さ 11～12mm、自生地では 7～8 月頃に開花します。そう果は長さ約 6mm、幅約 1.5mm で、冠毛は長さ約 10mm で 2 列しています。

本種は和名にヒゴタイと付いているため、ヒゴタイ（*Echinops setifer*）の仲間と思われる方もいますが、本種はトウヒレン属で、ヒゴタイはキク科ヒゴタイ属のため、姿形はまったくの別物です。日本には、トウヒレン属で和名にヒゴタイと付く植物が本種の他に数種あります。

本園では、6 月頃に咲きますが、育成中のため展示していません。来年度以降、高山植物園東側の展示棚で公開する予定です。環境省が作成・公表しているレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では、ユキバヒゴタイは絶滅危惧 II 類（VU）（絶滅の危険が増大している種）に選定されています。

ユキバヒゴタイ（*Saussurea chionophylla* ）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/

参考：『日本の野生植物Ⅲ』（1981）ほか

植物園だより

2019 年 9 月

シリーズ 21　夕張岳で見られる植物

5. ユウバリキンバイ

バラ科のユウバリキンバイ（*Potentilla matsumurae* var. *yuparensis*）は、夕張岳の固有種で、高山の岩礫地や草地に自生する多年草です。漢字では夕張金梅と書きます。

本種は、北海道、本州中部以北、サハリン、南千島などに分布するミヤマキンバイ（*P. matsumurae* var. *matsumurae*）の変種です。ミヤマキンバイは、根茎が太く、茎は高さ 10～20cm になります。根生葉は 3 個の小葉からなり、小葉は長さ 1.5～3cm の倒卵形で、縁には荒い鋭鋸歯があります。葉の表は無毛かまばらに毛が生え光沢があり、裏には軟毛が密生します。托葉は膜質で卵形をしていて、褐色～緑色を帯びています。花茎には径 20mm ほどの黄色い花を数個付け、花弁は倒卵形で萼片と副萼片は狭卵形をしています。

小葉が深く裂け裂片が線形になったものが北海道には 2 タイプあり、葉が無毛で光沢があるものをアポイキンバイ（*P. matsumurae* var. *apoiensis*）といい、葉に少し毛が有り光沢がないものがユウバリキンバイです。夕張岳の自生地では 6～7 月頃に咲きます。

また、果実の先端に長毛があるものをケミヤマキンバイ（*P. matsumurae f. lasiocarpa*）といいます。

環境省が作成・公表しているレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では、ユウバリキンバイは絶滅危惧 IB 類（EN）（近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）に選定されています。

本園では 6 月頃に咲き、高山植物園東側の展示棚で公開しています。

ユウバリキンバイ
（*Potentilla matsumurae* var. *yuparensis*）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/

参考：『日本の野生植物Ⅱ』（1981）ほか

植物園だより

2019 年 10, 11 月

シリーズ 21　夕張岳で見られる植物

6. ユウバリコザクラ

サクラソウ科のユウバリコザクラ（*Primula yuparensis*）は、夕張岳の固有種で、高山帯の蛇紋岩崩壊地、特に雪が遅くまで残る湿ったところに生える多年草です。夕張で初めて発見されたことでユウバリコザクラと名付けられました。漢字では夕張小桜と書きます。

根茎は短く数枚の葉を束生します。長さ 1～3cm、幅 5～15mm の倒皮針形で先は短く尖り、下部はしだいに狭まり葉柄はほとんどありません。縁には目立たない細かい鋸歯があり、裏面には白い粉を薄く帯びています。自生地では 7～8 月頃に開花します。長さ 4～10cm の花茎を伸ばし、1～3 個の紅紫色をした花を散形状につけます。花冠は径 12～15mm で、花冠の中心部は緑白色をしていて、筒部は径 15mm 程です。苞は線形で基部がややふくらみ、先は尖っています。萼は長さ 7mm 程で狭い筒形をし、中程まで 5 裂し、裂片は披針形で先は鈍くなっています。萼と花柄には腺点状の毛とわずかな白色の粉状物がみられます。

環境省が作成･公表しているレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では、ユウバリコザクラは絶滅危惧 IA 類（CR）（近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）に選定されています。

植物園だよりシリーズ 19～21 では、本園で栽培･系統保存している北海道の主要山系の絶滅危惧植物 19 種類を取り上げました。高山植物園東側の展示棚に絶滅危惧種を青いラベルを付けて展示しています。保有数が少なく常時展示出来ない種もあります。しかし、植物園では、出来るだけ多くの絶滅危惧植物をみなさんに知ってもらえるよう努力しています。

ユウバリコザクラ（*Primula yuparensis*）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/

参考：『日本の野生植物 Ⅲ』（1989）ほか